

平成25年度 木更津市生涯学習推進協議会 第2回会議 議事録

日 時：平成26年3月18日（火）

午後2時00分～3時30分

会 場：木更津市役所6階会議室

議 題 協議事項・報告事項

○木更津市の生涯学習事業について

- ・生涯学習市民公開講座
- ・生涯学習バス「まなび」の運行状況
- ・生涯学習フェスティバル
- ・その他

出席者 工藤 敏夫（会長）、金子 邦夫、石井 章、浦辺 恒夫、安西 要吉、藤野 笙子、安藤 順子、磯部 光治

事務局 初谷教育長、本多教育部次長、石井生涯学習課長、佐々木副主幹、露寄主査、堀田主事

事 務 局：定刻になりましたので、ただ今より木更津市生涯学習推進協議会第2回会議を開催いたします。本会議は、「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」により公開されております。本日の傍聴人はおりません。また本日の会議は、委員13名中8名の出席です。したがって、生涯学習推進協議会設置要項第6条第2項の規程により委員の2分の1以上の出席がございますので本会議は成立しております。

以上報告いたします。

それでは、はじめに工藤会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

工 藤 会 長：皆さんこんにちは。木更津工専の工藤でございます。今年度の第2回目となりましたが、引き続き議長を務めさせていただきたいと思っておりますので、ご挨拶はちょっと手短かにさせていただきますがどうぞよろしくお願いたします。

事 務 局：ありがとうございます。続きまして、木更津市生涯学習推進本部副本部長の初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長：皆さん、こんにちは。今日は、年度末で大変忙しい中、委員の方々にはお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今ご挨拶いただきました工藤会長をはじめ委員の方々には2年間この協議会委員をお願いし、大変貴重なご意見をいただき心よりお礼を申し上げたいと思っております。本当にありがとうございました。

社会教育・生涯学習に関しまして、先月ですが、木更津市立中央公民館が、全国優良公民

館ということで、文部科学大臣表彰をいただきましたのでご報告いたします。中央公民館として、2回目の表彰となります。また、市内の公民館では、平成20年に富来田公民館が受賞しておりますが、このことを糧に、社会教育・生涯学習を一層力強く進めていかななくてはならないと考えております。

今日の会議の中では、今年1年間の生涯学習の推進状況について事務局より報告、説明をさせていただきますので、そのこと又は今後についてご意見ご指導を賜りたいと考えております。

また、もう1点、議題の2つ目としては、現在、木更津市では基本構想を策定し、これを数年間の基本計画、あるいは年次毎の年度計画に落とししていく訳ですが、教育委員会関係でも教育振興の基本計画あるいは生涯学習・社会教育あるいはキャンプ場のあり方等々について、新しい時代にどのように立ち向かって行くかという事を頻りに審議している、そういう節目の時期になっております。今日の報告でお示しできるのは、具体性にはまだ欠けますけれども、これから先のことについて、委員の方からご意見等を頂戴できれば大変ありがたいな、と考えております。本日予定している議題については、以上のとおりですのでよろしくお願いいたします。

事務局：それでは、生涯学習推進協議会設置要綱第6条により会長に本会議の議長として進行をお願いいたします。工藤会長よろしくをお願いいたします。

工藤会長：それでは、進行を務めさせていただきます。

本日の議題は、平成25年度木更津市生涯学習事業の報告と生涯学習推進の今後の方向性について、この二つの協議でございます。それでは事業報告の概要につきまして、事務局より報告をいただいた後に、協議を行ってまいりたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

それでは、平成25年度の生涯学習事業ということで、生涯学習市民公開講座、生涯学習バス、生涯学習フェスティバルの各事業について、ご説明をお願いします。

< 事務局説明 >

工藤会長：それでは、これから質疑に入りたいと思います。まずは、順番に生涯学習市民公開講座からお願いします。

(質問・意見なし)

工藤会長：私も、10月5日の法学を受講させていただきました。比較的若い先生で、ハキハキした説明で分かり易かったと思えました。参加者の状況も拝見しましたが、やはり高齢の方が多かったですが、高齢でも元気があつて質問をされる方もたくさんいました。リピーターといえますか定着した受講者もいるようですね。

金子委員：公開講座のアンケート結果によれば、「初めて受講した」という方が31名というのは、良い数字ではないかなと感じました。受講するきっかけの問いでは、「学ぶ場が欲しかった」、「知識の収集」、「以前受講し今年も受講しようと思った」といった回答が多いことから、この公開講座が役立っているのではないかと思います。

それから、市民公開講座に対するご意見の中で、「若者が参加できるような内容を検討してほしい」、「木更津工専からも講師を呼んだら如何でしょうか。分野が広がると思います。」といったご意見がでております。

たしかに、若い人たちの参加は少ないですね。若者が参加できる内容というのは、年間7回という回数からするとなかなか難しいのかなと思いますが、木更津工専からも講師を呼べれば分野が広がります。こういったご意見は、数年前からありましたし、委員の中でも提案されていたことです。

企画としては、かなり難しいのかなという感じもしますが、若者が参加できる内容を検討できないでしょうか。

石井課長：木更津工専の講師の先生には、清見台公民館のサタデースクール事業で理科の実験などをする親子向けの講座等を実施していただいております。若い人たちの公開講座への参加についてですが、やはりテーマ、内容が若者に響くものであれば参加してもらえると考えるので、清和大学と検討していきたいと思います。

工藤会長：繰返し参加されている方が好む分野もありますが、今までなかったようなテーマを選べば、また新たな方が受講することも考えられるかもしれませんね。次年度の開催方針もこれからと思いますが、今日のご意見も踏まえながらお願いします。

それでは、生涯学習バスについてはいかがでしょうか。

(質問・意見なし)

よろしければ、次の生涯学習フェスティバルについてご意見があれば。

石井委員：リーダースクラブに、企画から運営までやらせたということで、青少年ならではの良さがあったと思いますが、具体的にお願いします。

事務局：リーダースクラブ、ユースボランティアの会議から出席しておりましたが、まず考えとして「自分たちが何をできるか」というところよりも、「子どもたちを楽しませるために何をしていきたいか」というところから始まりました。そして、自分たちが「何だったら楽しいか」という話が進み「巨大迷路を体験したい」、「巨大迷路をやっつけよう」、「巨大迷路の実施」となりました。

他の会議では、「子どものために」という考えはあったのですが、自分たちが子どもだったら何をしたいか、という考えで会議が進んだのは、初めてでしたのでとても新鮮な気持ちになりました。

ちなみに、彼らが作った迷路の名前は、「きさぼんだんジョン」です。ダンジョンという大人はわからないのですが、「子どもだったら、ダンジョンは迷路って通じるよ」といったところも子ども目線です。

また、完成した巨大迷路には、途中ダンボールでトンネルを作ったり、真ん中の空間の壁面に子どもたちが落書きできるようにするなど、子どもならではのアイデアや工夫がたくさん詰まっています。

パネルを300枚使用するなど、手伝った大人は大変でしたが、良い経験だったと思います。

石井委員：やはり若者ならではの良さがあるんだな、ということがお話を伺ってわかりました。

初谷教育長：大人は、どうしても去年の形から出発するんですよね。成功例にしても、失敗例にしても。でも、若い人たちは、その辺はダイナミックというか、とんでもないことや、冷や冷やするようなアイデアも出てきたり、その辺がいいんじゃないかなという気がします。今年は、雪の関係でやらなかったんですが、公民館のつどいにも若い人たちが分科会を組んで臨んでくれたり、公民館まつりにも中学生が積極的に、手伝いというよりは役割を担って参加してくれたり、そういう若い人たちの力が随分見えてきております。清見台公民館の通学合宿にも工専の方たちが協力してくれていますし、そういうのが、心強いなど感じております。

石井委員：こういう風に企画させたり運営させたりすると、すごく力を発揮する子っているんですよね。現在は、本当に何もしなくても、お金をだせば楽しめるものが溢れている中で、とても良い機会だなと思い、訊かせていただきました。

金子委員：公民館で「まなび」のバスを使用していますが、「まなび」がもう一台あれば、生涯学習もさらに充実すると思いますがいかがですか。

石井課長：金子委員がおっしゃることはもっともだと思います。ただ、バスは大変高額です。

現在の生涯学習バスは、平成20年に購入しましたが、財源は生涯学習基金です。

当初、平成4年頃は1億円程度ございましたが、それを生涯学習活動の財源として切り崩し、現在は2,600万円程度に減っております。生涯学習バスは、5年くらいしたら買い換えなければいけないのですが、その間に基金が無くなる可能性も高いので、なかなか2台目というのは難しいです。

金子委員：無理を承知で質問してしまいました（笑）。

工藤会長：以上、皆様のご発言、ご意見を26年度の事業に反映させていただければと思います。
それでは、次に「生涯学習推進の今後の方向性について」事務局からご説明をお願いします。

< 事務局説明 >

工藤会長：ありがとうございます。いろいろな計画があって、今まさにそれを見直して新たな計画を立てようとやっているところだと思いますが、何かございますでしょうか。

石井委員：新しい政策の基本理念の中にある「結ぶ」というのは、いろんなものを結ぶ、そのなかに人も勿論入ってくると捉えていいと思うんですけど、すごく必要性を感じているんです。

私は、保護者と接する機会があるのですが、子どもに困っている親というのは、相談できなくて困っている人がすごく多いんですよね。「結ばれていない」んです。「結ばれていない」なかで、どうすればいいか分からなくて困っている。人との関わりの中で救われる人が、一人でも二人でも出てくればいいな、ということを感じます。

また、子どもをスポーツのチームに参加させると、親としての役割が年に1回か2回あるそうなんですけど、それが負担で子どもを参加させない。折角の機会を、親が遮断してしまっている、という話も聞きます。

いろんなところで大人や子ども、人同士が関わって、子どもが救われたり、育ったりとなればいいなと考えますので、そういった意味で「結ぶ」というのは、すごく大事にさせていただけたらなと思います。

浦辺委員：これから、社会的に高齢者が増加する環境のなかで、どう対応するかですが、人生という一つの生涯を行政的にも、社会的にも、皆が“満たされる”と感じるような無理のない社会を創って行くにはどうしたらいいか。ただ生きるんじゃなくて、死ぬまで活き活きと生きる。若い人たちを育てながら、高齢者も安心して社会生活ができる、というのも非常に難しいと思いますが、この基本構想が地域にあったものになればいいかなと思います。

工藤会長：高齢者の率も高くなってきますし、社会を元気に維持していくというのは大変な課題だと思いますが、そこは生涯学習のなかでどういう風に扱うかということですね。

市として大変な事だろうと思いますが、本日出たご意見、いろんな団体、方々のご意見もあると思いますので、そういうものを踏まえて立派な計画を作っていただければと思います。皆様方のご協力で無事会議を進行することができました。ありがとうございました。

事務局におかれましては、本日、審議されました意見などを参考に、木更津市の生涯学習体制充実のため一層の努力をお願いいたします。

さて、委員の任期が今年度末までとなっております。再任される方も、今期で退任される

方もいらっしゃるかと思いますが、皆様方におかれましては、引き続き、豊かな生涯学習社会実現のため、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げたいと思います。私も4年間委員を務めさせていただきましたが退任いたします。ありがとうございました。それでは、本日の会議を閉じさせていただきます。

事務局：それでは、平成25年度木更津市生涯学習課推進協議会第2回会議を終了いたします。お疲れ様でした。